

未来を担う世代へ。ファッション×環境の特別講義。



ファッションは、自分を演出する手段のひとつ。
若い世代の心を惹きつける世界であり、
ファッション業界は常に憧れの職業の上位に挙げられます。

一方で、大量生産・大量消費を前提とするアパレル業界の在り方が
自然環境に大きな負荷を与えていると問題視されるようになり、
ファッションは環境との関係を見えなくなっています。

だからこそ、これからファッション界を目指す若い世代に
和紙繊維〈CURETEX®〉のこと、
キュアテックスが進める循環型プロジェクトのことを、ぜひ知って欲しい。

そんな願いが叶い、ファッションを学ぶ大学生のみなさんに
私たちキュアテックスの環境に対する想いや取り組みを知っていただく
貴重な機会に恵まれました。

きっかけは、昨年12月の「エコプロ2021」に出展した際、
文化学園大学の熊谷伸子先生が〈CURETEX®〉のデニムに目を留められ、
循環型プロジェクトなどの取り組みにも関心を寄せてくださったこと。

熊谷先生は服装学部ファッション社会学科の教授で、
ファッションと環境の関係について学会で発表されたり、
衣料廃棄物のコークス化リサイクルの取り組みなどにも携わっていらっしゃいます。

そしてこのたび、熊谷先生のお招きで
ファッション社会学科3年生のみなさんへの特別講義というスペシャルな企画が実現。

2022年10月11日・18日の2回にわたり、
文化学園大学にて約60人の学生のみなさんを前に
キュアテックス社員3人が講師として登壇し、講義を行いました。

11日は、〈CURETEX®〉の製造工程や効果・効能などについて、
またキュアテックスとしてのSDGsに関する取り組みや
循環型プロジェクトについてご紹介。

18日は、前回の講義を参考に、商品企画・開発のグループワーク。

講義を終えてからの感想として、
前向きで希望に満ちたさまざまなご意見が寄せられました。

- 初めて和紙繊維を触りました。
和紙は折り紙では触ったことがありますが、
繊維として触ったのは初めてでした。
そもそも和紙で服ができるなんて
想像もしたことがなかったのでとても新鮮に感じ、
今までは綿や麻といった天然繊維に注目しがちでしたが、
こんなものあるんだとアパレルにも可能性があるなど感じる事が出来ました。
- 和紙繊維について、今まで知らなかったことを知ることができました。
今までは和紙に対して古臭さや脆さといった
マイナスのイメージを持っていましたが、
今回の講義を通して和紙の良さを感じる事ができました。
- SDGsは今ファッション業界で
最も大事にされているテーマの一つになっていて、
様々なブランドが環境にやさしい素材などを使うというところは学びましたが、
直接生分解性の素材を見ることは初めてだったので、すごく新鮮でした。
ブランドで出している環境にやさしい成分を使う商品だけではなく、
その素材自体がサステイナブルですごいと思いました。
- 和紙繊維というものを初めて触り、
その魅力を知ることができて、大変良い学びになった。
今後、キュアテックスさんから
どのような製品が開発されるのかも興味を持った。

〈CURETEX®〉を知ることで
アパレルの未来に新しい光を感じていただいたようで、
私たちにとって大変嬉しく、貴重な体験となりました。

このような機会に恵まれ、
熊谷先生をはじめ文化学園大学関係者のみなさまに心から感謝しています。